

市町村名	宮古島市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	宮古島市neo歴史文化ロード整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-(ア)			
担当部課名	生涯学習部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(1)			
事業内容	宮古島市neo歴史文化ロード「綾道(あやんつ)」として、「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とした伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島市特異の歴史と文化」を巡る新たな散策コース等の整備を行い、新たな観光資源の一つとして広く活用する。令和元年度は平成24年～平成30年までに整備したコースの見直しと令和2年度以降に整備するのコース策定構想を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	23,498	30,751	34,699	26,023	10,270	
		(b)予算現額	26,078	30,751	34,699	22,210	10,270	
		(c)増減額(b-a)	2,580	0	0	▲ 3,813	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	26,078	30,751	34,699	22,210	10,270		
		B. 執行済額		25,502	30,419	32,971	22,068	9,419
		うち交付金充当額		20,401	24,335	26,376	17,654	7,535
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		97.8%	98.9%	95.0%	99.4%	91.7%	
予算の状況の説明		計画通り事業執行した。 不用額851千円は委託料における当初予算と契約時の差金によるもの。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	上野野原・下地東コースの策定	目 標	(1コース)	()	()	()		
		実 績	策定中					
	平成24～30年度に策定した「綾道」コース上の文化財の環境美化(除草清掃)	目 標	(年5回)	()	()	()		
		実 績	完了					
達成状況説明	・令和元年度は、パンフレットデザインレイアウトや印刷製本、案内版の設置等のコース整備の実施ができなかったため、実績として策定中としているが、策定調査員の業務として令和2年度(四島・西原)、令和3年度(上野野原・下地東)に策定を予定している地区内の情報収集を実施している。 ・既存のコース43か所の環境整備除草清掃業務を年5回行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況			基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
	・満足度が向上したか(80%以上)を含め、散策コースを活用した観光客へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%以上)	()	()	()	
		実 績		93.6%				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
進捗状況説明	観光客アンケートを実施した結果、目標値である80%を上回る93.6%が満足したと回答し、目標を達成することができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・既存の文化財説明板や案内板・標柱などには多言語化に対応している物とされていない物が混在しており、外国人観光客の増加傾向にあるなか、多言語化への対応は急務であるとする。	・既存の文化財説明板や案内板・標柱などにQRコードを添付し、宮古島市WEB公開システムにリンクさせることによって、説明板では解説しきれない情報や、ストリートビュー・3Dモデル等のWEBコンテンツを提供することを可能ではないか。さらにWEB公開システムで実装している多言語化(中国語・韓国語・英語)システムと合わせることで外国人観光客への対応を行うことができるのではないかな。
今後の取り組み方針		
・既存の文化財説明板や案内板・標柱などにQRコードを添付し、WEB公開システムとリンクさせることで多言語化への対応を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
宮古島市 9,419千円 賃金 1,557千円 個人1名 1,557千円 綾道コース策定調査員への賃金 委託料 7,862千円 宮古島市シルバー人材センター 7,862千円 物件環境整備に係る業務委託														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,419</td><td>9,419</td><td>7,535</td><td>1,884</td><td>0</td></tr> </table>		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,419	9,419	7,535	1,884	0			
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,419	9,419	7,535	1,884	0										
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○環境整備除草清掃作業業務は宮古島市シルバー人材センターに委託しており、また地方自治法施行令167条の2第2項に該当していることから適正であったと考えている。 ○予算規模について、事前に見積書を徴取するなどしており適正であると考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光拠点施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部課名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成27～令和1年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光誘客及び満足度向上を図るため、伊良部大橋橋詰め広場に観光案内所・特産品販売所・レストラン等の複合的機能を有する新たな観光地拠点施設を整備する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(R2年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	270,646				
		(b) 予算現額	267,983				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,663				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	267,983				
		B. 執行済額	259,603				
		うち交付金充当額	207,683				
		次年度繰越額	0				
		執行率 (%) (B/A)	96.9%				
		予算の状況の説明	委託料は当初予算10,659千円であったが、委託料の算定基準が改定された為、契約額が2,895千円となった。5,509千円を流用し、2,255千円が不用となった。 工事請負費は、当初予算234,259千円であったが、設計変更により88,564千円増額した。入札差金のうち14,681千円を流用し、5,831千円を補正減額した。5,311千円が不用となった。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	
	観光拠点施設の工事	目 標	(工事実施)	()	()	()	
		実 績	工事実施				
	備品購入	目 標	(備品購入)	()	()	()	
		実 績	備品購入				
達成状況説明	予定していた工事を実施し、備品を購入した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)
	観光拠点施設の工事の完了	目 標	()	(工事の完了)	()	()	()
		実 績		工事の完了			
	備品購入の完了	目 標	()	(備品購入完了)	()	()	()
		実 績		備品購入完了			
	【R2成果目標】年間利用客数37,560人	目 標	()	()	()	()	(37,560)
		実 績					
	【R2成果目標】観光客の満足度向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
	進捗状況説明	予定していた工事及び備品購入を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・令和元年度に予定していた整備工事はすべて完了し、新たな観光資源としての観光地拠点施設が完成した。	・整備した施設で島内の特産品を販売し、観光による経済効果の拡大を図る。
今後の取り組み方針		
・観光拠点としての機能を発揮するよう指定管理業者と連携を図りながら運営していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>301,664</td><td>259,603</td><td>207,683</td><td>51,920</td><td>42,060</td></tr> </table> 宮古島市 301,664千円 委託料 2,895千円 与儀康・一級建築士事務所 2,895千円 (伊良部大橋橋詰広場観光拠点施設新築工事監理業務委託) 工事請負費 297,000千円 (株)南西建設 140,470千円 (株)丸秀 117,150千円 (有)久貝電設土木 39,380千円 (伊良部大橋橋詰広場観光拠点施設機械設備工事) 備品購入費 1,769千円 大嶺商事 1,769千円 (宮古島市伊良部大橋橋詰広場観光拠点施設備品購入)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	301,664	259,603	207,683	51,920	42,060
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
301,664	259,603	207,683	51,920	42,060										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であった。 ○設計変更に係る予算の増額及び入札残による不用が発生しており、積算の精度を上げる必要がある。 ○費目・使途については、事業目的に即しているものであった。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	新城海岸環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成28～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	新城海岸を訪れる観光客の利便性向上のため、新城海岸利便施設にシャワーを整備する。今年度は同施設に上水を引き込むための水道管敷設工事を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和2年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	54,735	—		10,582	81,683
		(b) 予算現額	54,735	—		9,720	90,558
		(c) 増減額 (b-a)	0	—		▲ 862	8,875
		(d) 繰越額	—	54,735		—	—
		A. 計 (b+d)	54,735	54,735		9,720	90,558
		B. 執行済額	0	54,274		9,720	76,912
		うち交付金充当額	0	43,419		7,776	61,529
		次年度繰越額	54,735	0		0	0
		執行率(%) (B/A)	0.0%	99.2%		100.0%	84.9%
		予算の状況の説明	資材単価及び労務単価の高騰及び岩発生による設計変更等により、8,875千円を増額したが、道路復旧幅を変更する設計変更を行ったことにより、13,646千円の不用が発生した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	水道管敷設工事	目 標	(工事の実施)	()	()	()	
		実 績	工事の実施				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	年度内に業務を完了しており、活動目標を達成することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)
	水道管敷設工事の完了	目 標	()	(工事の完了)	()	()	()
		実 績		工事の完了			
	【R2成果目標】 観光客の利便性向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
	進捗状況説明	当初の予定通り工事を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・計画通り水道管敷設工事を完了した。	・水道管敷設により、市単独事業で新城海岸利便施設に整備したコインシャワー設備の利用が可能となったので、今後は同施設を活用し、新城海岸を訪れる観光客の満足度向上を図る。
今後の取り組み方針		
・新城利便施設の適正な管理により、宮古島市を訪れる観光客の満足度を向上させる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
76,912	76,912	61,529	15,383	0

宮古島市
76,912千円

工事請負費
66,242千円

委託料
10,670千円

日建株式会社
44,891千円

大和建設株式会社
21,351千円

株式会社興武測量設計
10,670千円

〔 令和元年度新城海岸
水道管敷設工事(1工区) 〕

〔 令和元年度新城海岸
水道管敷設工事(2工区) 〕

〔 新城海岸水道管工事現場
技術業務委託(令和元年度) 〕

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であった。 ○設計変更に係る予算の増額及び不用が発生しており、積算の精度を上げる必要がある。 ○費目・使途については、事業目的に即しているものであった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤	トロピカルフルーツパーク機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ			
担当部署名	農林水産部 農村整備課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備			
事業内容	トロピカルフルーツパークの観光誘客を図るため、園路・大型駐車場・マルシェ広場を整備し民間企業を誘致する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(R4年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000				12,694	
		(b) 予算現額	3,000				12,694	
		(c) 増減額 (b-a)	0				0	
		(d) 繰越額	—				—	
		A. 計 (b+d)	3,000				12,694	
	B. 執行済額		2,808				12,694	
	うち交付金充当額		2,246				10,155	
	次年度繰越額		0				0	
	執行率(%) (B/A)		93.6%				100.0%	
予算の状況の説明		当初予算のとおり予算執行し完了した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	基本設計の実施	目標	(基本計画の検討)	()	()	(基本設計の実施)		
		実績	基本計画の検討			基本設計の実施		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	トロピカルフルーツパーク基本設計を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)	
	基本設計の完了	目標	()	(100%)	()	()	()	
		実績		100%				
	【R4成果目標】年間利用客数49,474人	目標	()	()	()	()	(49,474人)	
		実績						
	進捗状況説明	トロピカルフルーツパーク基本設計を完了した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	宮古島市は、農水産物、工芸品を活用した特産品などの地域資源を有しているが、これらの地域資源が現状では十分に活用されておらず、観光客の誘客や新たな観光メニュー開発等による「観光振興」、観光業と連携した「地場産業の活性化」及び新たな「雇用の創出」などへの活用が課題となっている。	宮古島市内の地域資源を「観光振興」「地場産業の活性化」「雇用の創出」に結びつけるため、観光客誘客の基盤となる施設の機能強化、新たな特産品開発、エコアイランド宮古島の発信と新たな産業の創出を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
R4年度の供用開始に向け実施設計及び整備工事を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費		交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
12,694		12,694	10,155	2,539
				交付対象 外経費
				0
宮古島市 12,694 千円 → 委託料 12,694 千円 → 沖縄UDS株式会社 12,694 千円 トロピカルフルーツパーク 基本設計業務委託				
資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○特記仕様に基づき見積書を徴し設計を行ったため適正な規模であった。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	宮古島市伝統工芸品センター機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	宮古島市伝統工芸品センターの冷房機を設置し、観光客等の快適な施設利用を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	10,186				
		(b)予算現額	9,180				
		(c)増減額(b-a)	▲1,006				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	9,180				
		B.執行済額	9,180				
		うち交付金充当額	7,344				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
		予算の状況の説明	事業計画当初の冷房機設置は5台を予定していたが、冷房機設置対象面積が4台で対応できることから、冷房機1台分の減額が発生した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	宮古島市伝統工芸品センターの冷房機設置工事	目 標	宮古島市伝統工芸品センターの冷房機設置工事	()	()	()	()
		実 績	宮古島市伝統工芸品センタークーラー4台設置				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	冷房機4台の設置工事が10月に完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	観光メニュー体験者数 180人(2019年7月～2020年3月)	目 標	()	(180)	()	()	()
		実 績		3			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	冷房機の設置工事が10月に完了したため、夏場繁忙期の観光客需要を取り込めなかったことや、2～3月にかけて新型コロナウイルス感染症の影響で入域観光客数が大幅に落ち込んだことにより、活動目標が大幅に落ち込んだ。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果目標を達成できなかった要因として、観光体験メニューの周知不足が考えられる。	・施設での観光体験メニューを同施設ホームページ等で周知を幅広く行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・施設での観光体験メニューを同施設ホームページ等で幅広く周知を行う。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で入域観光客数が大幅に落ち込ことが予想されるため、成果目標数値の変更を検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,180</td><td>9,180</td><td>7,344</td><td>1,836</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,180	9,180	7,344	1,836	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,180	9,180	7,344	1,836	0										
宮古島市 9,180千円 工事請負費 9,180千円 東光電気株式会社 9,180千円 令和元年度宮古島市伝統工芸品センタークーラー増設工事														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑦	観光施設美装化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(エ)		
担当部課名	農林水産部 農政課	事業実施(予定)年度	令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
事業内容	・魅力的な観光地としての景観形成を図るため、竜宮城展望台内外壁を塗装し、壁画を描き入れる。 ・外国人観光客の受入環境整備のため、多言語型の案内板を設置する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和2年度)							
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,340					
		(b)予算現額	10,340					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	10,340					
	B. 執行済額		10,221					
	うち交付金充当額		8,177					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		98.8%					
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行できた。不用額119千円については入札差金である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	竜宮城展望台塗装改修工事の実施	目標	(工事実施)					
		実績	工事実施					
		目標	()					
		実績						
達成状況説明	年度内に工事を完了しており、活動目標を達成することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)	
	竜宮城展望台塗装改修工事の完了	目標	()	(工事完了)	()	()	()	
		実績		工事完了				
	【R2成果目標】 観光客等を対象に、観光地として魅力的かどうか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業の成果を検証する。	目標	()	()	()	()	(80%)	
		実績						
	進捗状況説明	竜宮城展望台内外壁の塗装・壁画の描き入れ・案内板の設置を完了し、供用開始することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業実施前の竜宮城展望台の内外装では色あせた印象を受けてしまうという課題があったため、観光地としてふさわしい内外装を考慮して事業を実施した。	魅力的な観光地としての景観形成については、工事を完了したことで、景観向上がなされた状況となっており、改善の必要はないものと考えられる。
今後の取り組み方針		
魅力的な観光地にふさわしい景観となっているか、観光客を対象としたアンケートにより本事業のあり方について検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,221</td><td>10,221</td><td>8,177</td><td>2,044</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,221	10,221	8,177	2,044	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,221	10,221	8,177	2,044	0										
宮古島市 10,221千円 → 工事請負費 10,221千円 → 有限会社 総合シークレット 10,221千円 〔 来間島竜宮城展望台塗装改修工事 〕														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	観光地アクセス道路環境美化強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(②)-エ	
担当部課名	建設部 道路建設課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	美しい島づくりを推進するため、観光地アクセス道路の環境美化強化(除草・清掃)を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a)当初予算額	33,687	34,912	36,983	37,271	37,271
		(b)予算現額	32,017	34,912	36,983	37,271	37,271
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,670	0	0	0	0
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		32,017	34,912	36,983	37,271	37,271
	B. 執行済額		31,452	29,152	34,599	34,881	34,475
	うち交付金充当額		25,161	23,321	27,679	27,905	27,580
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.2%	83.5%	93.6%	93.6%	92.5%
予算の状況の説明		宮古島市内の観光地アクセス道路32路線の清掃作業を実施したが、台風で出勤できない不測の日数が生じ不用額2,796千円となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	観光地アクセス道路の環境美化の実施(32路線)	目 標	(32路線)	(作業実施)	(作業実施)	(作業実施)	
		実 績	32路線	作業実施	作業実施	作業実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	宮古島市の主要観光地へのアクセス道路環境美化を図るため、市道32路線を選定し、18名を雇用し道路清掃作業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)		()
		実 績		79.1%	83.5%		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	観光地周辺について、観光地としてふさわしい道路環境及び景観であるか(80%)を目標に事業を実施したが、目標値以上の評価を得た。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客の増加に伴い、清掃作業頻度が増えている。また、台風による影響や、作業員定員の確保が困難な状況もあり作業効率の悪化が生じた。	今後優先的に環境美化を実施する対象路線を見直し、作業環境の改善及び人員を確保し、必要に応じた配置等を行う。
今後の取り組み方針		
関係機関と連携を図りつつ、対象路線及び環境美化作業の頻度を見直し、観光地アクセス道路の環境美化を実施していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
				市町村負担金
				交付対象外経費
		34,475	34,475	27,580
				6,895
				0
宮古島市 (34,475千円) 賃金18名 (31,693千円) 需用費 (2,782千円) (道路清掃作業に伴う賃金職員) (事業実施に係る消耗品費、燃料費、修繕費)				
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・賃金職員は、本市条例・規則に基づき審査、決定しており妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・台風等災害で出勤できな不測の日数が生じたが、予算規模は適切だった。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途については支出等に関する書類により確認し、適当である。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②		観光地公園環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	建設部 都市計画課 伊良部支所 地域づくり課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		観光客の受入体制の整備	
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	美しい島づくりを推進するため、宮古島観光地公園5箇所(東平安名崎公園、パイナガマ公園、カママ嶺公園、大嶽城趾公園、サニツ浜公園)及び伊良部島観光地公園7ヶ所(サバオキ公園、フナウサギバナ、白鳥公園、通り池、佐和田の浜、渡口の浜、牧山公園)の観光地として利用されている公園の環境美化清掃を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,500	11,934	21,723	22,382	22,797
		(b) 予算現額	18,500	18,943	18,813	19,718	19,341
		(c) 増減額(b-a)	0	7,009	▲ 2,910	▲ 2,664	▲ 3,456
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		18,500	18,943	18,813	19,718	19,341
	B. 執行済額		18,070	16,821	18,743	18,599	17,536
	うち交付金充当額			13,456	14,994	14,879	14,029
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.7%	88.8%	99.6%	94.3%	90.7%
予算の状況の説明		・当初計画通りすべて実施することができた。 ・不用額1,805千円は入札差金によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	観光地公園12ヶ所の環境美化作業実施	目 標	(12箇所)	(12箇所)	(12箇所)	(12箇所)	
		実 績	12箇所	12箇所	12箇所	12箇所	
	【参考指標】 定期的美化作業 宮古島:年12回(月1回程度)	目 標	宮古島:年12回 (伊良部島:年4～5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4～5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4～5回)	宮古島:年12回 (伊良部島:年4～5回)	
		実 績	宮古島:年12回 伊良部島:年4～5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4～5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4～5回	宮古島:年12回 伊良部島:年4～5回	
達成状況説明	宮古島観光地公園5箇所(東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城趾公園・サニツ浜公園)においては、それぞれ月1回以上の除草作業等を実施した。 伊良部島観光地公園は7箇所(サバオキ公園4回、フナウサギバナ5回、白鳥公園5回、通り池5回、佐和田の浜5回、渡口の浜4回、牧山公園5回)の除草作業等を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	観光地公園について、観光地としてふさわしい景観であるか(80%以上)を含め、観光客を対象としたアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	()	()	()
		実 績		93.6%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	美化環境について観光客にアンケートを実施した結果、目標値である80%を上回り約94%が満足だと回答した。観光地公園の環境美化作業を実施することで観光地として魅力的な景観形成が図られている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 定期的に除草を行っているが、5～10月の間は雑草の成長が早く作業が追いついていない。 - 入域観光客数の増加に伴い、観光客による放置ゴミ等による美化環境の悪化が懸念される。	- 面積が大きい作業観光地公園の除草作業については、除草範囲を分けて委託を検討する必要がある。 - 観光客の増加が観光地公園の美化環境にどのような変化を及ぼすかを把握し、変化に対応した公園環境美化作業内容について検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
- 観光客の増加による公園の美化環境の変化を把握し、観光地公園としての景観形成を在り方を検討する。 - 必要に応じて今後、除草作業の範囲の拡大や清掃活動の回数を増やすなど、公園美化環境の最適化に向けて取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
宮古島市 17,536千円 委託料 17,536千円 (有)狩俣造園 3,575千円 (株)ビザライ 1,395千円 (有)大地造園 3,216千円 特定非営利活動法人 すこやかネット 4,284千円 特定非営利活動法人 すこやかネット 1,559千円 (社)宮古島市シルバー人材センター 3,508千円 東平安名崎公園環境美化委託業務 パイナガマ公園環境美化委託業務 大嶽城趾公園環境美化委託業務 カママ嶺公園環境美化委託業務 サニツ浜公園環境美化委託業務 伊良部地区観光地公園環境美化委託業務				
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
	17,536	17,536	14,029	3,507
				交付対象外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第3号の規定により公表を行った上での随意契約と指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用、使途については、事業目的の観点から必要かどうかを検討し、額の確定時において確認しており適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。		

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	クルーズ船観光受入体制強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	クルーズ船観光客の受入体制強化に向け、観光案内所の設置・運営、臨時CIQ設置、歓送迎セレモニーの開催、情報の発信・収集等を行い、観光客の満足度を高め、誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
		(b)予算現額	15,000	25,000	24,980		
		(c)増減額(b-a)	15,000	25,000	24,364		
		(d)繰越額	0	0	▲ 616		
		A. 計(b+d)	—	—	—		
	執行状況	B. 執行済額	15,000	25,000	24,364		
		うち交付金充当額	14,361	16,606	21,443		
		次年度繰越額	11,489	13,284	17,154		
		執行率(%) (B/A)	0	0	0		
	95.7%	66.4%	88.0%				
予算の状況の説明	不用額の2,921千円は、主に委託業務の出来高精算時の減額によるもの。委託業務の出来高精算の減少は、コロナウイルス感染症や悪天候により当初160回程度予定していた寄港が、119回に減ったことが主な理由となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	・観光案内所の設置、運営	目 標	(寄港時に実施)	(寄港時に実施)	(寄港時に実施)	()	
		実 績	寄港時に実施	寄港時に実施	寄港時に実施		
	・臨時CIQ設置	目 標	(寄港時に実施)	(寄港時に実施)	(寄港時に実施)	()	
		実 績	寄港時に実施	寄港時に実施	寄港時に実施		
	・歓送迎セレモニー	目 標	(初寄港時に開催)	(初寄港時に開催)	(初寄港時に開催)	()	
		実 績	初寄港時に開催	初寄港時に開催	初寄港時に開催		
	・二次交通対策	目 標	(案内板設置)	(案内板設置)	(案内板設置)	()	
		実 績	案内板設置	案内板設置	案内板設置		
	・パンフレットなど情報発信	目 標	(観光マップ配布)	(観光マップ等配布)	(観光マップ等配布)	()	
		実 績	観光マップ配布	観光マップ等配布	観光マップ等配布		
	・アンケートなど情報収集	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実 績	実施	実施	実施		

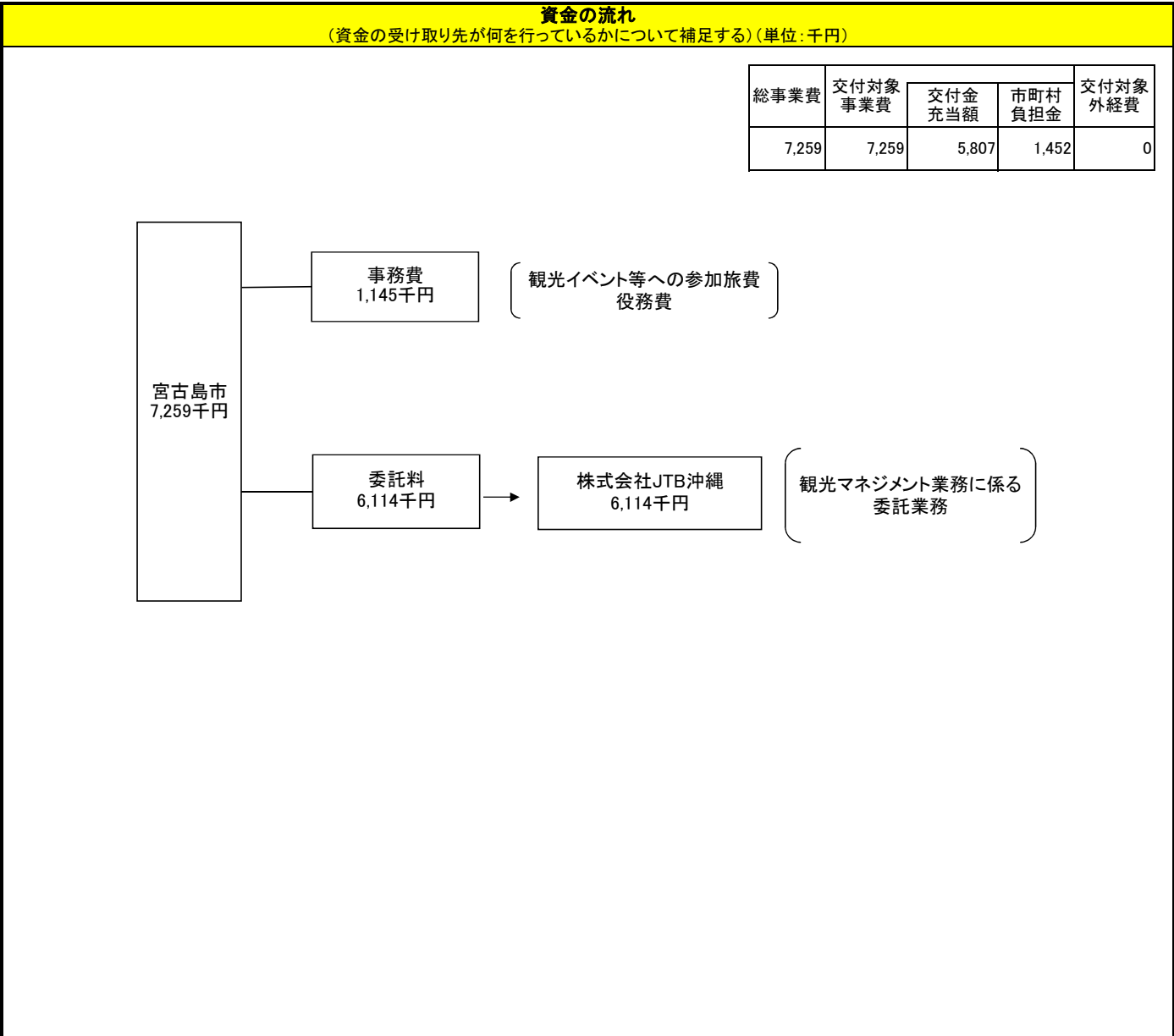
	達成状況説明	・観光案内所の設置、運営:委託期間中、すべて開設。 ・臨時CIQ設置:委託期間中、臨時CIQが必要な場合は、すべて設置。 ・歓迎セレモニー:初寄港船の歓迎セレモニーを2回実施。 ・二次交通対策:案内板等により、タクシー・臨時路線バスなどへ案内した。 ・パンフレットなど情報発信:観光マップ、散策マップ、マナーうちわを、多言語版で配布。中国語のHPを立ち上げ、タブレットを設置し、観光情報を発信した。クルーズ船情報のメール配信サービスを実施。 ・アンケート等情報収集:複数のクルーズ船乗客に対して実施し、宮古島観光などに関する情報収集を行った。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1 成果目標(指標)		基準値 (H29年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)
	・クルーズ船観光客数506,800人	目 標	()	(429,550人)	(506,800人)	()	()
		実 績	363,968人	454,157人	327,932人		
	【参考指標】 ・クルーズ船寄港回数	目 標	()	()	()	()	()
		実 績	147回	153回	119回		
	進捗状況説明	クルーズ船寄港回数は、平成30年度の153回から、令和1年度は119回と34回減少。成果目標指標のクルーズ船観光客数は、寄港回数の減少のため、327,932人と目標値を178,868人下回る結果となった。また、昨年度と比較すると、126,225人減となっている。寄港回数減少の主な原因は、コロナウイルス感染症や悪天候による寄港キャンセルのため。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・クルーズ船の寄港回数は153回から119回と大幅に減少した。減少の要因は、コロナウイルス感染症と悪天候による寄港キャンセルが主な理由となっている。 ・令和2年度には、クルーズ船専用パスと観光案内所併設のターミナルが供用開始予定となっている。 ・観光案内所での情報発信は、観光マップなどの紙媒体に加え、中国語のHPを新規に立ち上げ、観光客に周知するとともに、タブレットを使った観光案内を実施した。	・観光客に満足して頂けるように、利便性の高い観光案内所となるよう施設開所に向け取り組む必要がある。 ・マナー啓発についても、印刷物配布以外に動画やスマートホン活用などを検討したい。
今後の取り組み方針		
・観光関連事業者と連携するなど、観光案内所で提供できる新しいメニューを検討する。 ・新ターミナルにおいて、二次交通事業者等と連携し、交通案内の掲示の充実など、利便性向上に努める。 ・観光案内所で動画を使った寄港地PRやマナー啓発など、観光客にわかりやすく情報を提供する。 ・現在、コロナウイルス感染症の影響で寄港キャンセルが続く、先行きが不透明。収束の見通しがつけば、適時対策を検討したい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象 事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>21,443</td><td>21,443</td><td>17,154</td><td>4,289</td><td>0</td></tr></table> 宮古島市 21,443千円 委託料 21,443千円 宮古島観光協会 21,443千円 ・多言語の観光案内所の設置 ・パンフレット等による情報発信 ・臨時CIQの設置 ・バス・タクシーへの案内板の設置 - および誘導 ・歓迎セレモニー ・アンケート等の情報収集					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	21,443	21,443	17,154	4,289	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
21,443	21,443	17,154	4,289	0										
資金 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき、随意契約を行っており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○3,557千円の不用額、成果目標の未達成は、コロナウイルス感染症や悪天候によるクルーズ船のキャンセルが主な要因。不確定要素ではあるが、適正な予算規模になるよう努めたい。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	誘客促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(イ)	
担当部課名	観光商工部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本市への観光誘客を図るため、国内外の観光イベントでのプロモーション活動の実施、国内外の新規航空路線就航に向けたPR活動、官民が連携した「宮古島市観光推進協議会」の開催により各種取組の推進を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	25,000	28,000	21,000	9,000
		(b) 予算現額	—	20,370	21,000	19,800	7,500
		(c) 増減額(b-a)	—	▲ 4,630	▲ 7,000	▲ 1,200	▲ 1,500
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		—	20,370	21,000	19,800	7,500
	B. 執行済額		—	20,068	19,511	19,182	7,259
	うち交付金充当額		—	16,054	15,608	15,345	5,807
	次年度繰越額		—	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		—	98.5%	92.9%	96.9%	96.8%
予算の状況の説明		当初の計画通り事業を執行することができた。当初予算と比較し予算現額が1,500千円減となったのは、事業者見積により設定した委託料の予定価格設定が予算額よりも少なくなったが生じた不用額の一部を他事業へ流用したものの。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	①観光PRイベント等への参加	目 標	(イベント参加)	(イベント参加)	(イベント参加)	(イベント参加)	
		実 績	イベント参加	イベント参加	イベント参加	イベント参加	
	②観光マネジメント業務の実施	目 標	()	()	()	(業務実施)	
		実 績				業務実施	
	達成状況説明	【観光PRイベント等への参加】 厦門発着沖縄クルーズ販促イベント及び沖縄フェア2019(埼玉)で宮古島の観光PRを行った。また、台湾でのトップセールスを2度実施した。 【観光マネジメント業務】 第2次宮古島市観光振興基本計画で定めた観光振興に関する施策を官民一体となって推進し、宮古島市の活性化を図る事を目的とする宮古島市観光推進協議会(4回)及び観光実務担当者会議(4部会・各2回)を開催した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	入域観光客数1,000,000人以上	目 標	()	(710,000)	(710,000)	(1,000,000)	()
		実 績		988,343	1,143,031	1,061,323	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	宮古島市への入域観光客はクルーズ船入港回数の減少及び新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度よりも減少したが、目標1,000,000人に対し、実績は1,061,323人となり目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナウイルスの影響で年明けから入域観光客数が落ち込んだ。 ・観光マネジメント業務において、各種観光問題について官民で議論し、課題の共有を図った。	・入域観光客数を回復するために、国内PRイベント等へ参加し宮古島をPRしていく必要がある。 ・観光マネジメント業務で共有した課題の解決策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・国内PRイベント等への参加時には新型コロナウイルス感染拡大防止へ留意するとともに、PR方法やタイミングに配慮し実施する。 ・観光マネジメント業務で共有した課題の解決に向けて、関係各部署と連携し事業を実施する。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業の実施にあたっては公募型プロポーザル方式により、委託事業者を選定したほか、実績、知識等の面で信頼性がある事業者を選定して契約しており、支出先としては妥当であると考える。 △予算規模については、事業計画の精度を上げる必要がある。 ○費用・使途については、事業完了後に検査を行った結果適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	下地島空港旅客に向けたコンテンツ創出事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-(ア)	
担当部署名	企画政策部 企画調整課	事業実施(予定)年度	平成30~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	2019年3月に供用開始した下地島空港を利用する旅客等に向けて、地域の資源・魅力を発信する短時間周遊や体験型プログラム等のコンテンツを創出する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和2年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	13,608	15,906			
		(b)予算現額	13,133	15,662			
		(c)増減額(b-a)	▲475	▲244			
		(d)繰越額	—	—			
		A.計(b+d)	13,133	15,662			
	B.執行済額		13,133	13,716			
	うち交付金充当額		10,506	10,972			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	87.6%			
予算の状況の説明		当初予算と比較し予算現額が244千円減となったのは、委託料の受託事業者価格提示による不用額の一部を他事業へ流用したもの。 また、概算契約の精算により旅費等の減額(▲844千円)があったが、当初の計画通り事業を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R3年度	
	開発コンテンツの強化・改善に向けた委託業務の実施		目標 (実施)	()	()	()	
			実績 実施				
達成状況説明	①下地島空港利用客の観光動向調査を実施 ②モニターツアーを実施し平成30年度に策定したモデルルートを改善・強化 ③創出コンテンツ・モデルルートの情報発信ツールを作成						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R2年度)
	開発コンテンツの強化・改善業務の完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【R2成果目標】 WEBサイトへのアクセス数	目標	()	()	()	()	(2,600件)
		実績					
	進捗状況説明	①下地島空港利用客の動向調査を実施し、開港前後の動態比較や客層・利用目的の分析を行った。 ②分析結果及びモニターツアーの実施結果をもとに、前年度策定したモデルルートを改善・強化し、時間やエリアなどでテーマ分けした11のモデルルートを策定した。 ③モデルルートの周遊マップ及びWEBページを多言語化し、国内外の観光客へ旅マエ旅ナカで情報発信するツールを制作した。 【R2成果目標】 下地島空港年間利用客数(降客):約54,000人×4.7%(県観光統計)=2,538≒2,600件とした。 沖縄県観光統計実態調査より、宮古旅行の情報源『自治体や観光協会のウェブサイトSNS:4.7%』を採用。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①下地島空港利用客や島内観光事業者へのアンケート実施により、宮古空港利用客との属性や動向、ニーズの違いを把握することができた。 ②外国人モニターによるツアー実施により、海外からの観光客目線でモデルルートを改善することができ、動態調査の結果を基に島内全域へ観光客を循環させることを意識したモデルルートへ改善した。 ③周遊マップは2カ国語、WEBサイトは5カ国語対応と多言語化することにより、旅マエから国内外のターゲットへ効果的に情報発信するツールとした。	下地島空港に就航する航空会社や国内外の旅行会社への観光PRに際し、本事業で制作した多言語対応の周遊マップとWEBサイトを活用して具体的な旅の提案をすることで、誘客促進を図る。
今後の取り組み方針		
作成した周遊マップ・WEBサイトへのアクセス状況を分析し、観光のトレンドに合わせてモデルルートを魅力的なコンテンツとしての維持・管理していくことを検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		13,716	13,716	10,972
				市町村負担金
				2,744
				交付対象外経費
				0
宮古島市 13,716千円 → 委託料 13,716千円 → 株式会社JTB沖縄 13,716千円 (下地島空港旅客に向けたコンテンツ創出委託)				
資金の流 れ、使 途、費 用、点 検、評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は公募型プロポーザル方式にて実施し、公平かつ公正な決定により執行している。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模においては、複数事業者より見積を徴し積算を行う等、適正な規模の確保につとめている。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○業務委託は概算契約により締結し、完了時に事業対象となる経費のみ精算しており、必要な使途に限定している。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	宮古島市天然ガス資源活用推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-イ	
担当部課名	企画政策部 エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成28～令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	クリーンエネルギーの推進	
事業内容	宮古島の地下資源である天然ガス及び付随水(温泉水)を活用した事業化実現のため、コンテナ植物工場継続実証、100%天然ガス使用発電機の実証、採掘権取得を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(b)予算現額	35,000	52,000	54,629	44,979	
		(c)増減額(b-a)	35,000	52,000	54,629	44,979	
		(d)繰越額	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	—	—	—	—	
	B.執行済額		35,000	52,000	54,629	44,979	
			34,987	51,871	53,069	42,115	
		うち交付金充当額	27,989	41,497	42,455	33,692	
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.8%	97.1%	93.6%		
予算の状況の説明	執行率は93.6%であり的確な予算立て、執行が出来ている。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	・コンテナ植物工場継続実証	目 標	(実証実施)	()	()	()	
		実 績	実証実施				
	・100%天然ガス使用発電機の実証	目 標	(実証実施)	()	()	()	
		実 績	実証実施				
	・採掘権取得業務委託	目 標	(取得完了)	()	()	()	
		実 績	取得完了				
	達成状況説明	・ハーブ類・島野菜などの高付加価値野菜を育て収支の改善を検証した。 ・軽油との混焼であった昨年度とは違い、産出するガスのみで発電実証を行った。 ・継続的に天然ガスを使用するためには試掘権存続期間中に採掘権へ切り替えなければならない。宮古R-1号井が存在する鉱区については、許可証は得ており施業案について作成する。それ以外の5鉱区については令和元年度に転願申請を行い、今後は許可を待ち施業案を提出する。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度
・コンテナ植物工場の収穫326.4kg以上		目 標	()	(326.4kg以上)	()	()	()
		実 績		95.76kg			
・100%天然ガス使用発電機による発電25kw		目 標	()	(25kw)	()	()	()
		実 績		19.8kw			
・採掘権取得		目 標	()	(取得完了)	()	()	()
		実 績		取得完了			
進捗状況説明		・収穫量について目標を達成できなかった。 ・発電量について目標値を25kwに設定したが必要電力量が19.8kwであったため、その必要量を発電できたので目的は達成できたと考えている。 ・宮古R-1号井が存在する鉱区については、施業案について完了した。それ以外の5鉱区については転願申請を行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【宮古R-1号井】 一通り実証の区切りがついたと考えており、具体的な利用が待たれる。平成30年度に利活用予定者を選定したが、保安林の存在等、利活用を妨げる要因が存在する。 【その他5鉱区】 現在採掘権の許可待ちではあるが、実際の鉱山が無く、実績がない状況である。	【宮古R-1号井】 平成30年度から調整は行っていたが、令和2年度以降も引き続き有効活用できるように関係各所との調整等に取り組む。 【その他5鉱区】 令和元年度に民間事業者主体の天然ガス利活用推進協議会を立ち上げたので、具体的な利活用案について話し合っていく。
今後の取り組み方針		
【宮古R-1号井】 まずは、利活用予定者による活用を実現し、バックアップ用の2本目の井戸の掘削など必要が生じれば協力していく。 【その他5鉱区】 ・民間事業者を中心として、資源利活用ができるよう調整を図っていく。また、この他の鉱区についても要望や、利活用計画を具体化していく事業者が現れれば採掘権を設定できるように協力していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>42,115</td><td>42,115</td><td>33,692</td><td>8,423</td><td>0</td></tr></table> 宮古島市 42,115千円 委託料 42,115千円 (株)祭温 10,600千円 (株)りゅうせき建設 31,515千円 〔採掘権取得・委員会等運営業務〕 〔実証業務〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	42,115	42,115	33,692	8,423	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
42,115	42,115	33,692	8,423	0										
資金の流点、検・評価目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザルにより決定しているので妥当であったと考えている。 ○不用額は7%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については完成検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	エコアイランド宮古島ブランド化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部課名	企画政策部 エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成28～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	エコアイランド宮古島をブランド化していく上では、多くの市民がエコ関連の取り組みに関わることが重要だが、現状は一部の市民に留まる。多くの市民参加を促す為には、楽しみながら参加できる仕組みづくりが必要ことから、そのような場づくりとそうした活動を広く情報発信・共有する仕組みづくりを行うことで、島内のエコ活動が活発化し、宮古島ファンやリピーター、支援者の増加を図ることを目的とする。 令和元年度においては、市民や事業者のエコへの関心を高めるため、エコの取り組みに対する情報発信やイベント等を開催するとともに、これまでの取組の効果検証を図り、持続的な運営方法を検討する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	12,000	18,925	10,000	
		(b) 予算現額	3,000	12,000	18,925	10,000	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	3,000	12,000	18,925	10,000	
	B. 執行済額		2,997	11,685	17,895	8,287	
		うち交付金充当額	2,397	9,348	14,315	6,629	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	99.9%	97.4%	94.6%	82.9%	
	予算の状況の説明	プロポーザルの提案による契約額の圧縮と、精算時の適正な検査による必要最低額の確定により執行率は82.9%になった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・ウェブサイトの運営(エコ活動の取材及びSNSの活用等)及び効果検証	目 標	活動の取材(15回以上)、サイト更新(30回以上)、SNS更新(50回以上)	()	()	()	()
		実 績	活動の取材60回、サイト更新回数80回、SNS更新126回				
	・市民が参加できるイベント等の開催及び効果検証	目 標	(1回以上)	()	()	()	()
		実 績	1回				
達成状況説明	・ウェブサイトの運営としては目標を大きく上回った。アクセス数については、H30が68,330に対して、令和元年度は41,535と減ったもの、問い合わせが増えたことがわかった。 ・イベントの開催は「エコの島コンテスト」の第4回目が開催された。H30はJTAドームで実施したが、R1は、小規模な会場での実施となり、入場者数としては減った。(アンケートの回収数としては202名)。次年度は、ガバメントクラウドファンディング等による資金集めを行い実施することを検討した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・ウェブサイトのアクセス数:85,000件	目 標	()	(25,000件)	(85,000件)	()	()
		実 績		69,100件	41,535件		
	・SNSの「いいね」数:1,100件	目 標	()	()	(1,100件)	()	()
		実 績			1,467件		
	・各種イベント参加者数:合計600名	目 標	()	(500人)	(600人)	()	()
		実 績		723人	202人		
進捗状況説明	・ウェブサイトのアクセス数の成果目標は達成できなかったものの、取り組みなどについて問い合わせの増加が見られたことから、関心の高まりがうかがえる。 ・SNSについてはいいねの数の目標結果に加えて、フォロワー数の増加が見られたことから、一定の効果があつた。 ・当初予定していた会場から変更になった影響もあり、イベントの参加人数の目標は達成できなかったが、会場は常に満員状態であったことや、コンテストの発表団体に新規で企業からの応募があつたことなどからイベントとしての今後の発展が望める。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(ウェブサイトのアクセス数) ・目標を上回ることができなかった。更新頻度は、予定よりも多く更新しているので、新規の視聴者を増やすことが必要。魅力的な記事の作成をする必要がある。 (SNSのいいね数) ・目標を達成できたことは評価できる。草の根的な取材活動に対する一定の評価を得ている。 (各種イベント参加者数) ・目標人数を達成できなかった。会場のキャパシティに限界があったとはいえ、イベントの内容に対するブラッシュアップは求められている。	(ウェブサイトのアクセス数) ・視聴者数を増やすため、情報収集やニーズの把握を行う必要がある。 (SNSのいいね数) ・認知度を高める取り組みについて、検討を行い、取り組んでいく。 (各種イベント参加者数) ・イベントの内容についてマンネリ化しているとの指摘もあることから、イベントの内容について精査する。
今後の取り組み方針		
(ウェブサイトのアクセス数) ・更新頻度を維持することに加えて、魅力的な記事を作成するため、これまでの市民ライター育成講座参加者(市民ライター)の記事の充実を図る。 (SNSのいいね数) ・認知度を高めるためには、インフルエンサーとのコラボなどを検討する。 (各種イベント参加者数) ・イベント人数の増を図るため、キャパシティのある会場を活用することともに、内容について精査し、ブラッシュアップを図る。また、ガバメントクラウドファンディングを活用しより魅力的なイベントの実施に向けた財源の確保を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,287</td><td>8,287</td><td>6,629</td><td>1,658</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,287	8,287	6,629	1,658	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,287	8,287	6,629	1,658	0										
宮古島市 8,287千円 委託料 8,287千円 (一社)離島未来ラボ 8,287千円 コミュニケーションプラットフォーム構築業務														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者はプロポーザル方式による公募を行い、選定をしているので妥当であると考えている。 ○執行率82.9%となっていることから適正な規模であると考えている。 ○費目、使途については完成検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	生鮮水産物流通条件不利性解消事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部署名	農林水産部 水産課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	離島という地理的事情から生じる流通条件の不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、宮古島市に存する漁業協同組合(宮古島漁業協同組合、伊良部漁協同組合、池間漁業協同組合)が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送に対し、補助金を交付する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(b) 予算現額	1,560	3,315	950	1,140	2,144
		(c) 増減額(b-a)	1,560	491	1,206	2,218	2,140
		(d) 繰越額	0	▲ 2,824	256	1,078	▲ 4
		A. 計(b+d)	—	—	—	—	—
	B. 執行済額	475	419	815	711	701	
		うち交付金充当額	379	334	652	569	561
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	30.4%	85.3%	67.6%	32.1%	32.8%
	予算の状況の説明	当初予算額を算出する際の補助単価の基準としている前年度実績に錯誤があり、当初予算額が過大になったことで予算現額と執行済額に大きな乖離が生じ、執行率が低くなった。 ※H30年度に実施した生鮮水産物流通条件不利性解消事業において錯誤があったため、H30年度の執行済額を1,514千円から711千円に交付金充当額を1,211千円から569千円に修正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	生鮮水産物の空路輸送に対する補助(3漁協)	目 標	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	(出荷補助(3漁協))	
		実 績	出荷補助(2漁協)	出荷補助(3漁協)	出荷補助(2漁協)	出荷補助(2漁協)	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	3漁協での実施を目標としているが、宮古島漁協については本事業に充てる職員が確保できなかったため2漁協での実施となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H23年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	生鮮水産物の沖縄本島への出荷量(153.2トン)	目 標	(250トン)	(190トン)	(190トン)	(153.2トン)	(118.9トン)
		実 績		142.7トン	109.5トン	104.5トン	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	R1年度は、入域観光客数の増加等に伴い、島内需要が高まっていることもあり目標達成できなかった。 ※H30年度に実施した生鮮水産物流通条件不利性解消事業において錯誤があったため、H30年度の実績を108.3トンから109.5トンに修正した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	宮古島に存する3漁協を出荷補助の対象としているが、3漁協のうち1漁協が本事業に充てる職員を確保できず未実施となった。	未実施となった漁協に対し確保できなかった要因を確認し、実施に向けて調整していく必要がある。
今後の取り組み方針		
未実施となっている1漁協の状況確認を行うとともに実施している2漁協についても引き続きサポートを行い3漁協での実施に向けて取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		6,244	701	561
				市町村負担金
				140
				交付対象外経費
				5,543
宮古島市 701千円 補助金 701千円 伊良部漁業協同組合 445千円 池間漁業協同組合 256千円 生鮮水産物の出荷にかかる輸送費の補助 交付対象外経費:4,411千円 (受益者負担分:4,411千円) 交付対象外経費:1,132千円 (受益者負担分:1,132千円)				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○補助対象事業者である漁協は水産業協同組合法に基づき私的独占の禁止が謳われた組織であることから、支出先として妥当であると考えます。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		△予算額と執行額に大きな乖離があるため適正な規模だったとは言えない。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○輸送費の実績値に対し要綱に基づき算定された額を補助しているため負担関係としては妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目、使途については遂行状況や実績報告でその都度確認を行っており、精算時の検査により目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	来間東航路標識灯設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部署名	農林水産部水産課	事業実施(予定)年度	平成30～令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興	
事業内容	安全な夜間航行に資するため、同航路に航路標識灯(灯標)3基を設置する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和2年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	11,736	45,833			
		(b)予算現額	11,735	45,833			
		(c)増減額(b-a)	▲ 1	0			
		(d)繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	11,735	45,833			
	B. 執行済額		11,735	43,670			
	うち交付金充当額		9,388	34,936			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95.3%			
予算の状況の説明		事業計画とおりに委託業務を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	来間東沖標識灯設置工事の実施	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	予定していた標識灯設置工事を実施した。 工事の内容 1. 航路標識灯の設置(3基)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R2年度)
	航路標識灯設置工事の完了。	目標	()	調査測量設計業務の完了	航路標識灯設置の完了	()	()
		実績		調査測量設計業務の完了	航路標識灯設置の完了		
	【R2成果目標】 来間東航路夜間航行事故発生の防止、発生件数0件を目標にする。	目標	()	()	()	()	(0件)
		実績					
	進捗状況説明	年度期間内に完了し、適切に執行された。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	計画していたとおり来間東沖標識灯設置工事を実施、完了したことで、目標とした夜間航行事故防止への対応が整った。	航路標識設置完了後に、漁業者への周知を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
令和2年度以降は夜間航行事故発生0件を目標に、漁業者への航路標識の周知を行い、安全意識の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		43,670	43,670	34,936	8,734	0

宮古島市
43,670千円

工事請負費
43,670千円

株式会社 古波蔵組
43,670千円

(来間東沖標識灯設置工事)

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入力で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予定額は適正である。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①		救命処置普及強化支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	消防本部 総務課		事業実施(予定)年度	平成28年～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	観光客や市民等に重篤な傷病者が発生した際の応急体制を確保するため、市民の救命能力の向上と普及啓発に取り組む。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	18,495	7,402	7,411	7,414	
		(b)予算現額	18,495	7,893	7,411	7,418	
		(c)増減額(b-a)	0	491	0	4	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	18,495	7,893	7,411	7,418	
	執行状況	B. 執行済額	16,007	7,893	7,386	7,418	
		うち交付金充当額	12,805	6,315	5,909	5,933	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		86.5%	100.0%	99.7%	100.0%	
	予算の状況の説明		共済費4千円を補正し応急手当普及員3名分の報酬、共済費、事業の計画通り、予算を執行した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	・応急手当普及員:3名配置	目 標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実 績	3名	3名	3名	3名	
	定例救命講習会の実施:21回 (普通救命講習Ⅰ/15回、普通救命講習Ⅲ/3回、上級救命講習/3回)	目 標	定例21回 (Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回)	定例21回 (Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回)	定例21回 (Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回)	定例21回 (Ⅰ/15回、Ⅲ/3回、上級/3回)	
		実 績	定例18回 (Ⅰ/17回、Ⅲ/0回、上級/1回)	定例18回 (Ⅰ/12回、Ⅲ/3回、上級/3回)	定例16回 (Ⅰ/11回、Ⅲ/2回、上級/3回)	定例15回 (Ⅰ/10回、Ⅲ/2回、上級/3回)	
	出前救命講習会の実施:随時受付開催	目 標	(開催)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実 績	開催	開催	開催	開催	
	救命講習に関する普及啓発活動	目 標	(実施)	(実施)	各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動	各種イベント等、地元ケーブルテレビ・ラジオで広報活動	
		実 績	実施	実施	出初式、防災フェア、防火委員会、宮古テレビ、FM宮古、広報誌	活動 出初式、防災フェア、防火委員会、宮古テレビ、FM宮古、広報誌、海開き	
	達成状況説明	・昨年度同様、専属の応急手当普及員を配置し、市民を対象に定例講習会、出前救命講習会を実施した。 ・各種スポーツ指導員及び部員に呼びかけを行い講習会を実施した。 ・新型コロナウイルスの影響で2月末及び3月の講習会が実施できず目標人数を達成できなかった。 (2・3月末実施の講習会は定例講習会以外に2月末時点で74名の受講予定であった)					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	救命講習受講者数1,700人以上	目 標	()	(1,000名)	(1,500名)	(1,700名)	()
		実 績		1,608名	1,646名	1,529名	
	救命講習受講者へのアンケートで適切な応急手当が理解できたか(80%以上)を含め本事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	()	(80%)	()
		実 績				71.8%	
進捗状況説明	・活動目標である普及啓発活動が奏功し、目標であった各種救命講習会の受講者数達成に向けて順調に数を伸ばしてきたが、新型コロナウイルスの影響で2月末より講習会が開催できず目標を達成できなかった。 ・受講者へのアンケートにおいて、「講習会を終えて心肺蘇生法を実施できるか」との問いに対して、実施出来るとの回答が71.8%となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(救命講習受講者数) ・新型コロナの状況により受講者数の減少があった。 ・受講者数については、伸び悩んでいる。 (受講者の習熟度検証) ・アンケートにおいて目標を下回った理由として、受講者において心配蘇生法を習得することは出来たが、実際の現場で口対口の人工呼吸に生理的抵抗があるためと思われる。	(救命講習受講者数) ・新型コロナ感染予防対策を行い講習会開催を行う ・本講習の周知を強化し、受講者数の増加に繋げる。 (受講者の習熟度検証) 救命講習の内容見直しや、既受講者への定期的な受講の呼びかけを行い。受講者の心肺蘇生法の定着と自信向上に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
(救命講習受講者数) ・新型コロナウイルス感染予防対策をとった講習会の開催を行い、受講者数の維持・増加を目指す。 ・未受講者へ本講習の周知と、既受講者への再受講の呼びかけを強化し受講者数の増加に繋げる。 (受講者の習熟度検証) ・現場をイメージした実践的な講習及び、口対口を実施しない蘇生法の講習時間を増やした講習会を行うとともに、定期的な受講を呼びかけ、受講者が実際の現場でも自信を持って対応できるように取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
宮古島市 7,418千円 報酬 6,480千円 応急手当普及員(3名) 6,480千円 〔 応急手当普及員への報酬 (3名×12ヶ月) 〕 共済費 938千円 応急手当普及員(3名) 938千円 〔 応急手当普及員 社会保険料 〕				
	総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
	7,418	7,418	5,933	1,485
				交付対象 外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 検 査 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先選定方法における応急手当普及員については有資格者を募集採用しているため、妥当であった。 ○事業の適切な運営に伴い、予算執行も適切に行われた。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①		課題を抱える児童生徒の支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	生徒指導上課題のある児童生徒の生活環境改善のため、個々に応じた支援の充実に向けて、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置する。また、課題を抱えた児童生徒が在籍する学校に、適切な指導・支援の取組強化のための問題行動学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,962	14,960	15,068	15,167	15,931
		(b) 予算現額	14,962	14,960	13,912	15,167	13,591
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 1,156	0	▲ 2,342
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	14,962	14,960	13,912	15,167	13,591
	B. 執行済額		13,823	14,757	13,621	12,570	11,361
	うち交付金充当額		11,057	11,805	10,897	10,056	9,089
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.4%	98.6%	97.9%	82.9%	83.6%
予算の状況の説明		SSW、社会福祉士人員不足の為、余剰となった報酬2,342千円を他事業に流用した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	スクールソーシャルワーカーの配置	目 標	(6人配置)	(6人配置)	(6人配置)	(6人配置)	
		実 績	6人配置	6人配置	6人配置	4人配置	
	問題行動等学習支援員の配置	目 標	(3人配置)	(3人配置)	(3人配置)	(3人配置)	
		実 績	3人配置	3人配置	2人配置	3人配置(7月より2人)	
達成状況説明	・スクールソーシャルワーカーは6人配置予定であったが、人材確保に苦慮し、4月から6月までは3人配置、5月と7月に各1人ずつ途中採用したが、1人が7月末で退職した。 ・スクールソーシャルワーカーは市内30校(小学校17、中学校13)に1人4～6校の分担で配置、支援を要する児童生徒の生活環境の改善を図り働きかけを行った。 ・問題行動等学習支援員は市内中学校3校に3名配置の予定であったが、4月は3人配置できたが、6月に1人退職し、以後2人配置となった。問題行動等の生徒の教育相談及び学習支援を行った。また、登校支援及び体験活動の支援などを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	不登校児童生徒復帰率50%以上(のべ復帰者/のべ不登校者)	目 標	()	(50%)	(50%)	(50%)	()
		実 績		30%	25%	23%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・登校復帰率は23%となり、小中学校いずれも前年度より低下、目標は未達成となった。 ・中学校において、登校復帰をした生徒の72%は問題行動等学習支援員を配置した3中学校の生徒であった。 ・スクールソーシャルワーカーによる生徒児童や保護者への支援、関連機関との連携が不登校の早期対応、学校復帰につながっている。学校において問題行動等学習支援員、スクールソーシャルワーカーが機能的に活用されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・目標に届かなかった要因のひとつとして、年度初めからスクールソーシャルワーカーの配置ができず、継続的な支援が困難であったことが考えられる。人員の確保が支援体制を充実させる上で大きな課題となっている。 ・保護者の精神的な不安定さや経済的な要因での不登校も増えており、医療や福祉等の関係機関と連携し、児童生徒の支援と並行して保護者支援を進めていく必要がある。 ・無理して学校に行かなくても良いと考えている保護者の増加や、学校への登校復帰のみを目標とした支援は児童生徒や保護者の精神的負担となる可能性もあることから、学校への復帰のみを目標とする支援ではなく、学校以外の学びの場(サポート教室、適応指導教室等)へつなぎ、将来的な社会的自立に向けての支援を行っている。 ・インターネットを活用し遠隔研修等を導入したことで定期的に研修を実施することが	・引き続き課題のある児童生徒及びその保護者に対して、学校や福祉事務所等関連施設と連携をとりながらきめ細かな支援を行い、学校若しくは学校以外の学習の場に繋ぎ、将来的な登校復帰、社会的自立につなげる。 ・遠隔研修の内容の充実と併せて、スクールソーシャルワーカー同士での事例検討会を実施し、年々複雑化している事案へのより効果的な対応を検討するとともに実践力の向上を図る。
今後の取り組み方針		
スクールソーシャルワーカー等の支援は、学校に登校する児童生徒の割合を増やすという指針が示されていることを踏まえ、不登校児童生徒のうち学校及び学校以外の学びの場につながった児童生徒の割合で効果を検証する。 ・スクールソーシャルワーカーを各学校における生徒指導に係る会議に積極的に参加させ、学校との連携を強化するとともに学校の生徒指導体制づくりの支援を図る。 ・児童生徒への支援だけでなく、保護者支援についても医療機関や福祉機関との役割分担を明確にしたうえで、効果的な支援を推進できるよう連絡会を実施する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
宮古島市 11,361千円 報酬 (4人) 7,498千円 〔 小学校17校、中学校13校:スクールソーシャルワーカー4人に対応 〕 賃金 (2人) 3,609千円 〔 問題学習行動支援員 〕 事務費 254千円 〔 講師謝礼金・旅費 〕				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		11,361	11,361	9,089
				市町村負担金
				2,272
				交付対象外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○スクールソーシャルワーカー等の選定は、専門的な知識や技術、経験等に基づいており妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○長期実績を踏まえたSSW配置人数は適正で、その報酬額は本市要綱に基づき予算化しており、事業内容に見合った適正規模であったと考える。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目、使途については、報酬をはじめ、SSWの資質向上に向けた研修会派遣など、事業目標達成の観点から真に必要なであったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②		選手派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	宮古島市立学校のスポーツ・文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、地区選抜代表選手等に対し、航空運賃に係る費用の一部を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	15,590	15,198	16,121	16,189	16,925
		(b) 予算現額	16,600	15,198	16,121	17,589	22,723
		(c) 増減額(b-a)	1,010	0	0	1,400	5,798
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	16,600	15,198	16,121	17,589	22,723
	B. 執行済額		15,985	13,467	16,095	17,546	21,990
		うち交付金充当額	12,788	10,773	12,875	14,036	17,592
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.3%	88.6%	99.8%	99.8%	96.8%
	予算の状況の説明		すべての補助申請に対応するため、5,798千円を増額流用した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H31活動目標(指標)		達成状況				
	児童生徒の大会派遣(県内・県外)	目 標	(児童生徒の大会派遣)	(児童生徒の大会派遣)	(児童生徒の大会派遣)	(児童生徒の大会派遣)	
		実 績	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	児童生徒の大会派遣	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	スポーツや文化面で地区代表選手等として島外へ派遣される延べ2172人の児童生徒【小学生(県内)749人(県外)123人、中学生(県内)1167人(県外)133人】に対し旅費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図った。 ○主な派遣先 ・小学生:県内「JA共済カップOFA第33回沖縄県U-11サッカー大会」25名、「第66全沖縄学校音楽発表会」86名 県外「全農杯2019年全日本卓球選手権大会」3名、「第45回九州アンサンブルコンテスト」11名 ・中学生:県内「第64回沖縄県中学校新人ソフトテニス大会」21名、「2019年度英語ストーリーテリングコンテスト県大会」2名 県外「第15回九州中学校空手道競技大会」1名、「第64回九州吹奏楽コンクール」47名					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	児童生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業のあり方を検証する	目 標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実 績		76%	97%		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	・保護者アンケート「お子さんが広い視野を持てたと思いますか」という問いに「そう思う」「ややそう思う」と答えたのは97%であり、目標達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・保護者アンケート質問内容の改良により成果目標の達成度をはかりやすくなり、回答率の向上に繋がった。 ・県外派遣が増加し、当初予算額を超過したため、流用による事業費増額を行った。	全ての申請に対して補助できるように、事業実施に必要な金額の把握に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
学校から選手派遣計画を年数回に分けて提出させ、事業実施に必要な予算を確保する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
43,980	21,990	17,592	4,398	21,990

宮古島市
21,990千円

補助金
21,990千円

各小中学校
(申請、請求及び受領
保護者へ交付)
21,990千円

〔 選手派遣に係る旅費の補助 〕

〔 保護者負担分
(交付対象外経費)
21,990千円 〕

資金の流れ、費目・ 使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される児童生徒を取りまとめる学校長を支出先とすることは適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は96.8%となっており適正な規模である。すべての補助申請に対応するため、5,798千円を増額流用した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○航空運賃に対する一部補助であり、受益者である保護者の負担もあることから、負担関係は妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、交付要綱に基づいた目的に限定して検査及び交付している。

市町村名	宮古島市							
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-④		電子黒板整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-7		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	H30～R1年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	わかりやすい授業を構築し学校教育の質の確保を図るため、令和元年度は市内小中学校7校の普通学級及び特別教室に241台の電子黒板を整備する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
			(a) 当初予算額	60,793	114,912			
			(b) 予算現額	36,493	109,080			
			(c) 増減額(b-a)	▲ 24,300	▲ 5,832			
			(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		36,493	109,080				
	B. 執行済額		36,493	109,080				
	うち交付金充当額		29,194	87,264				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		入札残により生じた5,832千円を第2回変更申請で減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
	電子黒板の整備 小学校13校177台 中学校7校56台 小中学校併置校1校8台			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
			目 標	(92台)	(241台)	()	()	
			実 績	109台	241台			
			目 標	()	()	()	()	
			実 績					
達成状況説明	目標通り各学校への整備を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (R1年度当初)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R1年度末)	
	児童生徒にアンケートを実施し、電子黒板を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。		目 標	(65%)	(80%)	()	()	()
			実 績		72%			
			目 標	()	()	()	()	()
			実 績					
	進捗状況説明	児童生徒へのアンケートは平成30年度整備済校で令和元年12月、令和元年度整備校で令和2年3月に調査を実施した。小4～中3の児童生徒約3,300人を対象とし2,396人の回答を得た結果、「電子黒板を使うことで授業がわかりやすくなったか」という問いに対し、「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答したのは小学校で78%、中学校で65%、平均して72%と、目標値の80%には届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	初年度ということで学校、教員による活用の差があったものと考えられる。ペン機能や保存機能を活用する教諭の割合が増えることで今後よりわかりやすい授業の構築に繋がるものと考えている。 ・学校や教員によっては、電子黒板を上手く活用しきれていない。	・今後は電子黒板の効果的な機能の活用促進のための教員フォローアップに注力する必要がある。
今後の取り組み方針		
・教員研修の充実や、電子黒板の効果的な活用事例の共有等、活用促進のための施策を講じていく。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
109,080	109,080	87,264	21,816	0

宮古島市
109,080千円

備品購入費
109,080千円

株式会社オキジム宮古支店
109,080千円

物品購入(電子黒板一式)
学校への搬入・設置
導入研修

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は競争入札で選定されており、妥当であった ○予算規模は見積もり徴取により積算し入札残の減額補正を行った。 ○備品購入のみの事業であり事業目的に即し適切であった
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	高等教育機関の設置検討事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-エ	
担当部署名	企画政策部 企画調整課	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活圏の充実	
事業内容	宮古島市において、高等教育機関の生徒募集、授業、OJT及び就職という一連のサイクルを実施することで、高等教育機関の設置に向けた実現性検証を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和4年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	6,804	7,344	46,039	36,300	
		(b)予算現額	6,804	7,344	32,959	36,300	
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 13,080	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	6,804	7,344	32,959	36,300	
	B. 執行済額		5,106	6,921	23,141	35,019	
		うち交付金充当額	4,805	5,537	18,512	28,014	
		次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		75.0%	94.2%	70.2%	96.5%	
	予算の状況の説明		不用額1,131千円については、委託料の精算額確定に伴う減額のために生じたものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	高等教育機関の設置実現に向けた実証業務の実施(実証を実施する機関 1校)	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	委託業者により、下記の取組を実施した。 ・学生募集 ・教育カリキュラム及びOJTの実施 ・上記内容の実証について、実行委員会による検証の実施						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R3年度)
	高等教育機関の設置実現に向けた、課題の把握	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【R3成果目標】 高等教育機関の設置認可 1件以上	目標	()	()	()	()	(1校)
		実績					
	進捗状況説明	・実証により顕在化した課題(教育カリキュラムの実施時間及びカリキュラムの見直し)の把握ができた。 ・HPのアクセスなどから、県外からの学生確保の可能性もあることから、次年度の実証対象とする。また、海外(インドネシア)では、日本での学びを推奨しており、現地法人との協働が考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・実施カリキュラムのうち、介護コースの受講希望者が少なく開講に至らなかった。また、開講の時間帯が夜間ということで、参加できない方もおり、実証において学生確保が課題となっている。 ・OJTへの企業の参加促進が課題となっている。	・実施カリキュラムや開講時間の見直しを行うことにより、多くの学生を集め、より精度の高い実証を行う必要がある。 ・OJTへの企業の参加促進のために本事業のPR活動を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・学生の確保に向けて、実施カリキュラムの再考と、島内在住者に対しては市広報誌、島外在住者に対してはホームページを活用し対象者に合わせた周知を行っていく。 ・OJTへの企業の参加促進に向けて、早期にOJTに協力頂ける企業へアプローチし事業説明会等でPRを行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35,019</td><td>35,019</td><td>28,014</td><td>7,005</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	35,019	35,019	28,014	7,005	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
35,019	35,019	28,014	7,005	0										
宮古島市 35,019千円 → 委託料 35,019千円 → 一般社団法人 沖縄県専修学校各種 学校協会 35,019千円 (高等教育機関の設置に向けた実 現性検証委託)														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は公募型プロポーザル方式にて実施し、公平かつ公正な決定により選定している。 ○予算規模においては、複数事業者より見積もりを徴し、積算を行う等、適正な規模の確保に努めている。 ○事務委託は概算契約により締結し、完了時に事業対象となる経費のみ精算しており、必要な使途に限定している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①		平良港総合物流センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ	
担当部課名	建設部 港湾課		事業実施(予定)年度	平成29～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人流・物流を支える港湾の整備	
事業内容	平良港において近年増加する取扱物流量に対応できるようにするため、平良港総合物流センターを整備するため土質調査を行い実施設計を策定する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和3年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,362	15,325	23,222		
		(b) 予算現額	6,362	10,260	23,222		
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 5,065	0		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	6,362	10,260	23,222		
	B. 執行済額		6,022	10,260	22,703		
	うち交付金充当額		4,817	8,208	18,162		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		94.7%	100.0%	97.8%		
予算の状況の説明		不用額である519,000円については入札差金であり、適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	総合物流センター実施設計策定業務の実施	目標	(基本計画策定)	(基本設計策定)	(実施設計策定)	()	
		実績	基本計画策定	基本設計策定	実施設計策定		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	H29年度の基本計画、H30年度の基本設計、R1年度の地質調査を基に実施設計を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	総合物流センター基本設計策定業務の完了	目標	()	(基本計画策定)	(基本設計策定)	(実施設計策定)	()
		実績		基本計画策定	基本設計策定	実施設計策定	
	【令和3年度 成果目標】 取扱物流量132千t	目標	()	()	()	()	132千t
		実績					
	進捗状況説明	H29年度の基本計画、H30年度の基本設計、R1年度の地質調査を基に実施設計を策定した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和2年度の工事発注に向けて、設計仕様や工事設計書を決定した。	令和2年度の工事発注に向けて、工事費の更なる精査を行う。 年度が替わることによって、作業員の単価や沖縄県資材単価、建築工事共通仕様書も変更されることになるため、令和2年度の基準を反映させた工事費の算出が必要となる。
今後の取り組み方針		
令和2年度から3年度にかけて本体工事を行い、令和4年4月に供用開始を予定している。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,703</td><td>22,703</td><td>18,162</td><td>4,541</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,703	22,703	18,162	4,541	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,703	22,703	18,162	4,541	0										
宮古島市 22,703千円 委託料 22,703千円 新生建設コンサルタント 7,533千円 有限会社 ヤマサト設計 15,170千円 (実施設計策定) (土質調査)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入力で選定しており、妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算における執行率は97.8%であり、残額も入札差金であることから、予算規模は適正であると考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については精査段階で検査を実施しており、											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	宮古島市											
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	10-①		地下水保全調査事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第5章-3-(4)-エ			
担当部課名	上下水道部 水道総務課			事業実施(予定)年度	令和元年度			沖縄振興基本方針該当箇所	生活基盤の充実			
									Ⅲ-10-1			
事業内容	地下水を唯一の淡水資源とする本市では、水道水源の保全が社会の成立案件となっていることから、持続的な社会を構築するため、地下水の保全に取り組むための水源可能性調査、流域界特定調査を行う。 ①伊良部島における水源可能性調査 ②平良地下水流域の流域界特定調査											
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和2年度)											
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()											
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度	
			(a) 当初予算額		104,328		37,000		79,037			
			(b) 予算現額		98,388		34,560		79,037			
			(c) 増減額(b-a)		▲ 5,940		▲ 2,440		0			
			(d) 繰越額		—		—		—			
	A. 計(b+d)		98,388		34,560		79,037					
	B. 執行済額		98,388		34,560		77,000					
	うち交付金充当額		78,710		27,648		61,600					
	次年度繰越額		0		0		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%		100.0%		97.4%					
予算の状況の説明		入札残により、2,037千円の不用額が発生した。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)			達成状況								
				R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		
	①伊良部島における水源可能性調査の実施			目 標	(実施)	()	()	()				
				実 績	実施							
	②平良地下水流域の流域界特定調査の分析			目 標	(実施)	()	()	()				
				実 績	実施							
達成状況説明	①伊良部島の地下水は淡水レンズとされ、開発可能な地下水は少ないことに加え、硝酸性窒素濃度も高いことから現在は宮古本島より水道水を送水している。しかし、観光客の増加、地震等に伴う断水の可能性を踏まえると伊良部島においても、予備的水源を確保する必要がある。前年度に調査を行った結果から、伊良部島の東側に水源開発の可能性が示された為、本年度は島の東側に調査範囲を設定し、水源開発の可能性のある範囲を確定する為に、ボーリング調査、垂直電気探査、電気伝導率測定、揚水試験等を行った。 ②現在ニヤーツ水源地のある平良地下水流域は、水道水源保全地域に指定されていない。そのため、塩水状況、流域界を確定し、ニヤーツ水源地に影響を及ぼし得る範囲を水道水源保全地域に設定する必要がある。今回の調査では平良地下水流域界の特定を図るべく、ボーリング調査、垂直電気探査、電気伝導率測定を行った。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)			基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R3年度)				
	①伊良部島における水源可能性調査の完了			目 標	()	(完了)	()	()	()			
				実 績		完了						
	②平良地下水流域の流域界特定調査の分析完了			目 標	()	(完了)	()	()	()			
				実 績		完了						
	進捗状況説明	①伊良部島における水源可能性調査については、伊良部島の東側において淡水範囲を推定することができた。推定される淡水範囲の面積はおよそ1.02km ² ほどで、島東側の断層に沿って縦長の楕円形に近い淡水範囲が示された。 ②平良地下水流域の流域界特定調査については、平良地下水流域界を概ね特定する結果が得られた。それによって次の2つの地下水保全範囲の検討案を考えることができた。 1. 既存の水道水源保全地域と同様、平良地下水流域界全体を包括する範囲を水道水源保全地域として設定する案 2. 塩水が内陸まで浸入していることに加え、市街地化が進行している平良地下水流域への生活環境及び経済活動への影響を最小限とするため、水道水源を保全するために必要な最小限の範囲を水道水源保全地域として設定する案										

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①伊良部島における水源可能性調査については、島の東側で淡水範囲面積を推定することができたが、調査データ不足のため、正確な淡水範囲、塩淡水境界、水源地の可能性の把握までには至らなかった。 ②平良地下水流域の流域界特定調査については、流域界の特定がされたが、正式な保全範囲の決定までには至らなかった。また、隣接する東添道流域よりこれまで想定していた以上の地下水が平良流域に越流している事がわかり、新水源開発の可能性が高くなった。	①伊良部島における水源可能性調査については、淡水範囲として推定された地域内でボーリング調査箇所の増加、また新水源開発のための揚水試験を実施し、伊良部島東部での地下水理構造、地下水質、並びに新水源候補地などを調査していくことが必要となる。 ②平良地下水流域の保全範囲については、今年度の実施結果から得られた2つの案により検討を行う事とし、新水源開発の可能性については、ボーリング調査の箇所の増加等により平良地下水流域内のより精度の高い詳細な地下水理構造の把握のための調査が必要となる。
今後の取り組み方針		
①伊良部島東側の地下水理構造および水質状況の調査を行い、水源開発の可能性を図っていく。 ②平良地下水流域の保全範囲の検討のために、東添道流域から平良地下水流域への流入量の多い水道付近での調査を行い、より詳細な地下水理構造の把握を進め、平良地下水流域の保全範囲を決定する。併せて、平良地下水流域内での新水源候補地の検討を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>77,000</td><td>77,000</td><td>61,600</td><td>15,400</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	77,000	77,000	61,600	15,400	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
77,000	77,000	61,600	15,400	0										
宮古島市 77,000千円 → 委託料 77,000千円 → (株)エイト日本技術開発 77,000千円 ①伊良部島における水源可能性調査 ②平良地下水流域の流域界特定調査														
資金の 使途の 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○専門的な調査内容であり、予算規模は適正であると考え											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○本事業の受注コンサルタントはこれまで宮古島の地質及び地下水について調査実績が豊富である。その調査結果は唯一の淡水資源とする本市においては、市民生活、観光サービス、その他の産業を支えるため、水道原水となる地下水の保全は必要不可欠であるため、今後においても継続調査を行う必要がある。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-①	城辺地区世代間交流施設等に関する検討事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	福祉部児童家庭課	事業実施(予定)年度	令和元年～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子育てセーフティネットの充実	
事業内容	城辺地区の高齢者の生きがいづくりや児童の居場所を確保するため、多世代が交流できる新たな施設整備をする基本計画を作成する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和4年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	4,178				
		(b)予算現額	4,178				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	4,178				
	B. 執行済額		3,974				
		うち交付金充当額	3,179				
		次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	95.1%					
	予算の状況の説明	不用額である204千円については受託事業者提示額との差金によるものであり、適正に事業を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	基本計画の策定	目 標	(基本計画の策定完了)	()	()	()	
		実 績	基本計画の策定完了				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	令和元年6月28日:基本計画策定業務委託事業企画提案公募 令和元年7月22日:事業者選定委員会 令和元年7月30日:契約(履行期間:令和元年7月31日～令和2年2月28日) 令和2年2月28日:業務完了(令和2年3月5日:引き渡し)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R4年度)
	基本計画の策定完了	目 標	()	(基本計画の策定完了)	()	()	()
		実 績		基本計画の策定完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	基本計画策定業務について、年度内に完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	R3年度で工事完了するために、R2年度内での基本設計、実施設計を完了させる必要がある。	R2年度に基本設計及び実施設計を完了させ、R3年度に工事完了、R4年度供用開始を目指す。
今後の取り組み方針		
令和2年度において基本設計、実施設計を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,974</td><td>3,974</td><td>3,179</td><td>795</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,974	3,974	3,179	795	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,974	3,974	3,179	795	0										
宮古島市 3,974千円 → 委託料 3,974千円 → (株)沖縄計画機構 3,974千円 城辺地区複合施設等に関する 基本計画策定業務委託事業 (城辺児童館・複合施設)														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は公募により選定しており妥当であったと考える。 ○不用額は予算額の5%以内であり適正であった。 ○委託費以外の歳出は無く、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												